取扱説明書及び部品表

Takakita

自走コンポキャスタ

SC-210F

本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記 QR コードを読み込んで
アクセスすることができます。

株式会社タカキタ

は　じ　め　に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**自走コンポキャスタ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠警告サイン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠危険　**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。**

⚠警告　**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。**

⚠注意　**その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。**

目　次

⚠ 安全に作業するために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

本製品の使用目的とサービスについて・・・・・・・・・・・・・・ 8

各部の名称とはたらき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

運転に必要な装着の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

1. エンジンスイッチ・・・・・・・・・・・・・・ 10
2. 散布・攪拌クラッチレバー・・・・・・・ 10
3. シャッター開閉レバー・・・・・・・・・・・ 10
4. 散布方向切り替えレバー・・・・・・・・・ 10
5. シュート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
6. 散布方向の調整・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
7. 走行クラッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
8. 粒状やペレット状肥料について・・・・ 12

作　業　方　法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

1. 作業手順と要点・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
2. 肥料の投入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
3. 開度の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
4. エンジンの回転速度について・・・・・ 16
5. 散布作業の方法について・・・・・・・・・ 16
6. 散布方向の選択・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
7. 散布幅について・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
8. 傾斜地について・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
9. 移動するときは・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
10. 車輌のトラックへの積込み・積降し・ 17
11. トラックでの運搬・・・・・・・・・・・・・・ 18
12. 肥料の混合、攪拌方法について・・・・・ 19

作業前の点検について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

1. 点検一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

簡単な手入れと処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

1. エンジンの点検・調整・・・・・・・・・・・ 22
2. エンジンのエアクリーナー(重要)・ 22
3. ベルトカバーの取外し・・・・・・・・・・・ 22
4. 散布フレームのダンプ・・・・・・・・・・・ 23
5. Vベルトの張り点検・調整・・・・・・・・ 23
6. シェアピンの交換・・・・・・・・・・・・・・ 24
7. 注油について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
8. ケーシング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
9. 肥料について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
10. 日常の管理について・・・・・・・・・・・・ 25
11. 長期格納時の手入れ・・・・・・・・・・・・ 26

不　調　診　断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

付　　表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

1. 主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
2. 主な消耗部品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1．本機を使用するにあたって

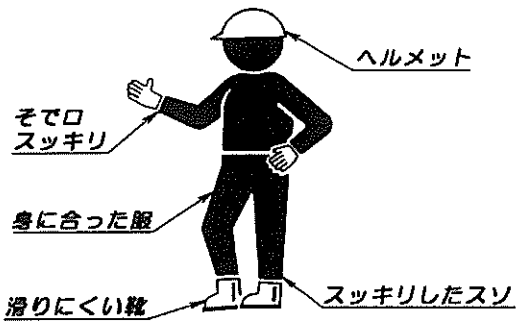
（1）使用する人の条件

次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- ●飲酒したとき。
- ●過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- ●妊娠しているとき。
- ●取扱方法を熟知していない人。

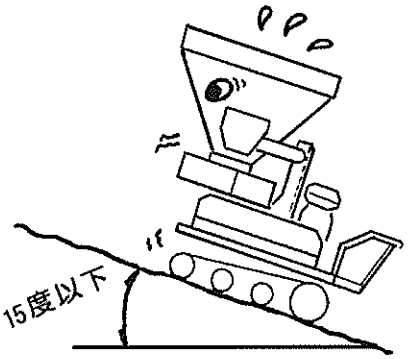
（2）使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



（3）積載量の厳守

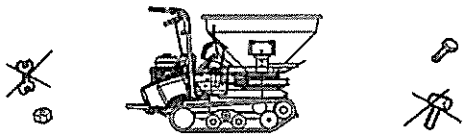
本機は、積載量を限定しています。
表示以上の積み過ぎは危険です。
積載量は平地で 200 kg、傾斜地作業は最大傾斜 15 度までとし、そのときの積載量は 150 kgです。



（4）機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。
また、改造をしないでください。

改造ダメ



（5）使用目的以外への使用禁止

肥料の散布を目的として作られた機械です。
他の目的には使用しないでください。

（6）機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。

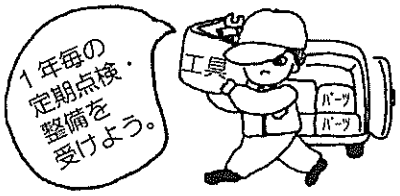
（7）同乗禁止

運転者以外の人を乗せないでください。

2．点検・整備をしてください

（1）１年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、１年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

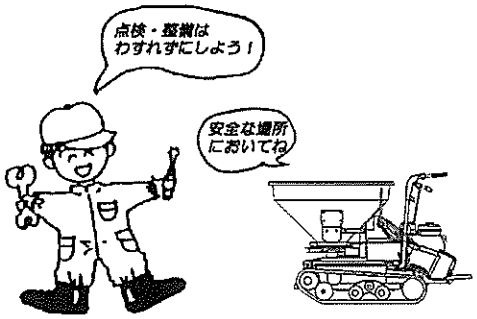


（2）作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

（3）点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でエンジンを止め、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください

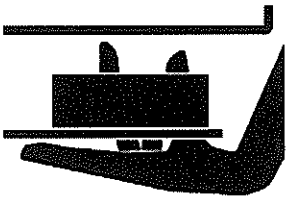


（4）点検・整備は加熱部分が冷めてから

マフラやエンジンなどの加熱部分が充分に冷めてから点検・整備をしてください。守らないと火傷する恐れがあります。

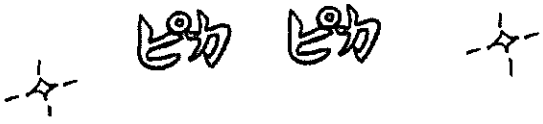
（5）慣性回転に注意

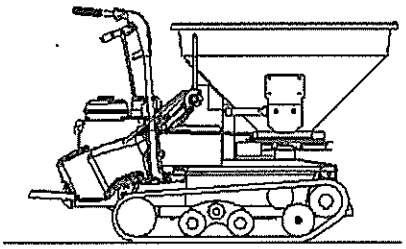
クラッチを切ってもスピンナーは慣性力でしばらく回転しています。完全に停止するまで触れないでください。



（6）機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやかたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。





エンジン・マフラ・ベルトカバー・バッテリーなどに枯草、芝草がたまっているとおもわぬ火災の原因となることがあります。機械を常にきれいにしてください。

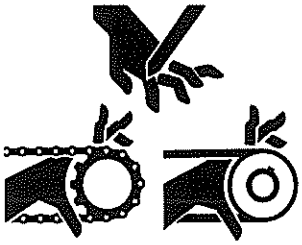
⚠ 安全に作業するために

（７）排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。

（８）カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



（９）注油・給油するときは

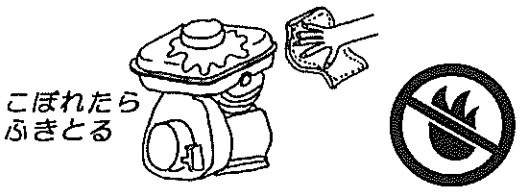
エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。

（１０）燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草やマッチ・ライターなど裸火照明は絶対に使用しないでください。守らないと燃料に引火し、火災を起こす恐れがあります。

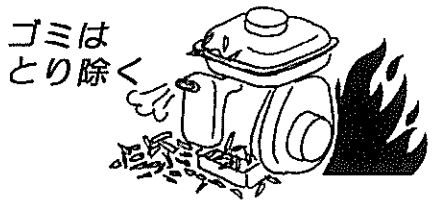
（１１）こぼれた燃料はふき取る

燃料補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



（１２）マフラ・エンジンのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺に、ワラクズ・ゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。守らないと火災事故を起こす恐れがあります。



（１３）エンジンスイッチの動作確認を

エンジンスイッチをＯＦＦにしてエンジンが停止するかを必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

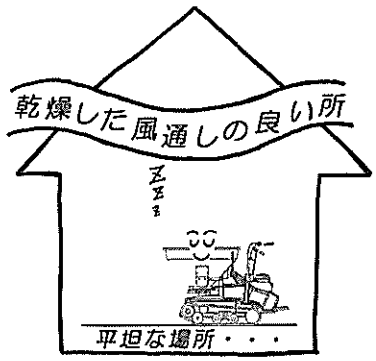
（１４）散布フレームをダンプするときは

点検、メンテナメンスのために散布フレームをダンプするときは、ダンプストッパーの先端をリベットピンに確実に入れて固定してください。怠ると散布フレームが落下して傷害を受ける恐れがあります。

⚠ 安全に作業するために

（１５）長期格納するときは

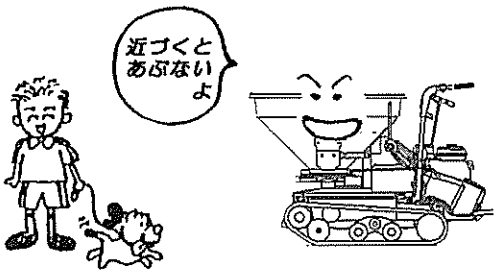
機械を清掃し、回転部は充分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



３．作業・移動をするときは

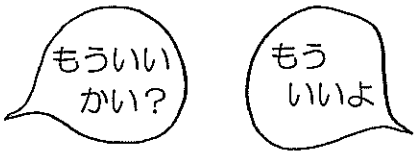
（１）人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。



（２）二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



（３）エンジンを始動するときは

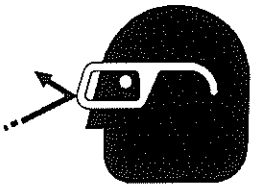
散布・攪拌クラッチ、走行クラッチが必ず切ってあることを確認し、周囲の人に合図をして安全を確かめてから始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

（４）散布作業するときは

散布作業中は肥料が左右方向に飛散します。その範囲に人がいないことや障害物がないことを確認して作業してください。

また、肥料が飛散して目や呼吸器に入る恐れがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを着用して作業してください。



保護メガネ着用
保護マスク着用

（５）急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

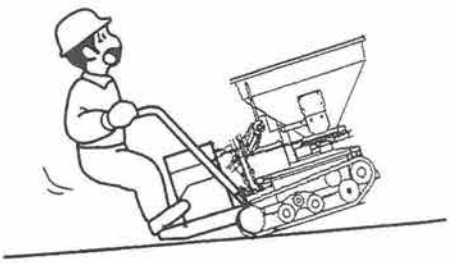
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

⚠ 安全に作業するために

（６）立ち乗り運転の心得

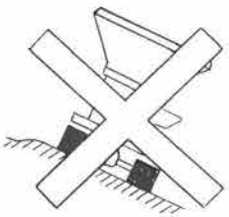
立ち乗り運転時は運転者が振り落とされたり車輌が転倒したりする恐れがありますので、十分注意してください。
また、立ち乗り運転時は 6 速を使用しないでください。



（７）傾斜地で作業するときは

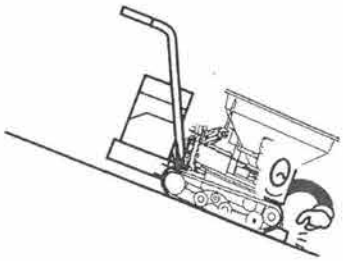
次のことを必ず守ってください。

①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は必ず等高線に対して直角方向に走行してください。



②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急旋回をおこなわないでください。
高速で旋回すると、転倒する危険があります。また、傾斜地でのステップに乗っての作業は転倒、転落する可能性がありますので行わないでください。

③傾斜地では駐車しないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、輪止めをしてください。



（８）溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

（９）作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停車し、エンジンを止め、走行クラッチを切ってください。

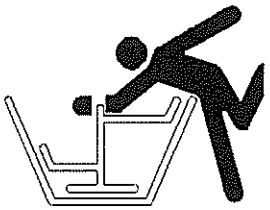
（１０）後進して作業するときは

後方に障害物のないことを充分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。

⚠ 安全に作業するために

（１１）攪拌、散布作業中は

ホッパー上に手を置く、あるいはホッパー内部に手を入れないでください。アジテータに巻き込まれると傷害を負う恐れがあります。



（１２）高温油に注意してください

①高温油による傷害を防止するために作業直後の注油やミッションのオイル交換はしないでください。作業前か充分温度が冷えてから行ってください。

②火傷やケガを負った場合は、速やかに医者の診療を受けてください。

４．道路走行・輸送するときは

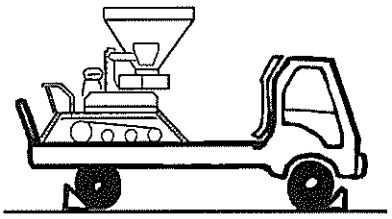
（１）公道走行はできません

本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックなどで運送してください。

（２）トラックなどへの積込み・積降ろしは

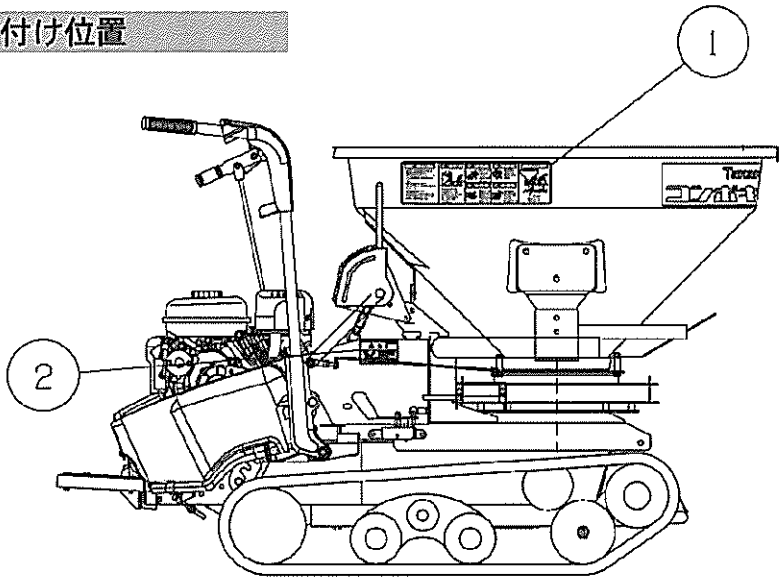
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

積込んだ機械は、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。

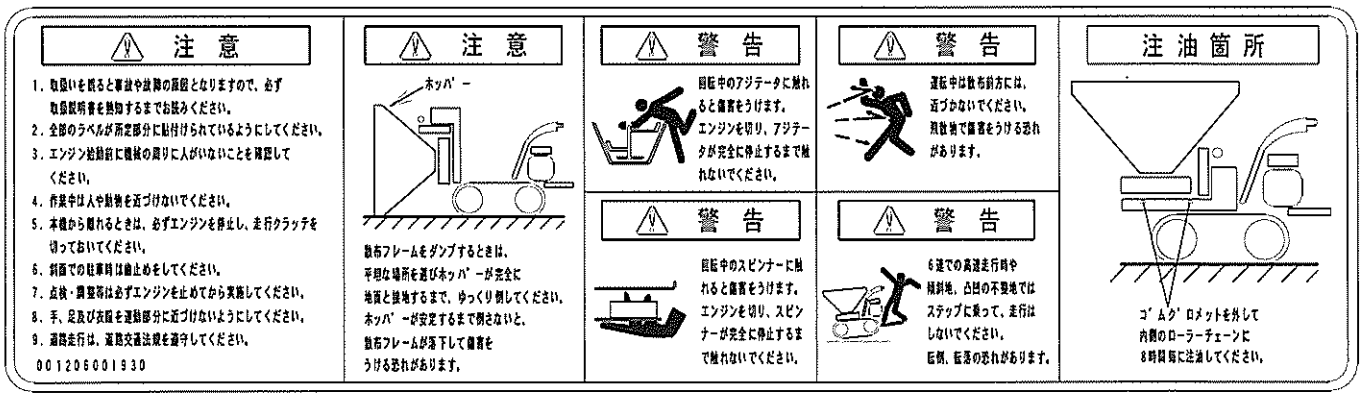


以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

5．警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 001206001930



②部品コード 001206000800

警告ラベルの取扱い注意事項

（1）警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。

（2）傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。（ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。）

（3）警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。

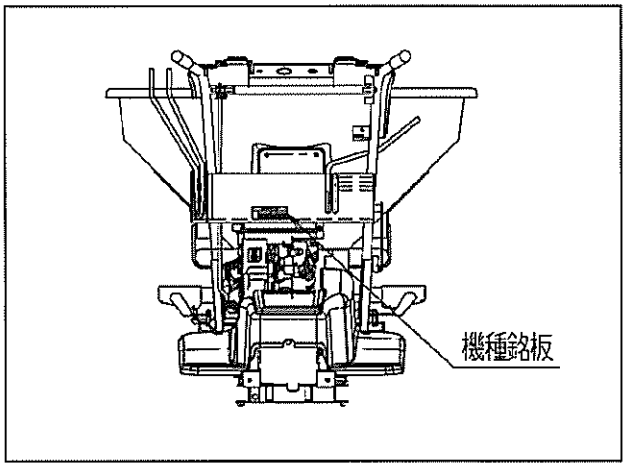
（4）新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、粒状・砂状の肥料の散布作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

（機体銘板貼付け位置図）



アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

【連絡していただきたい内容】

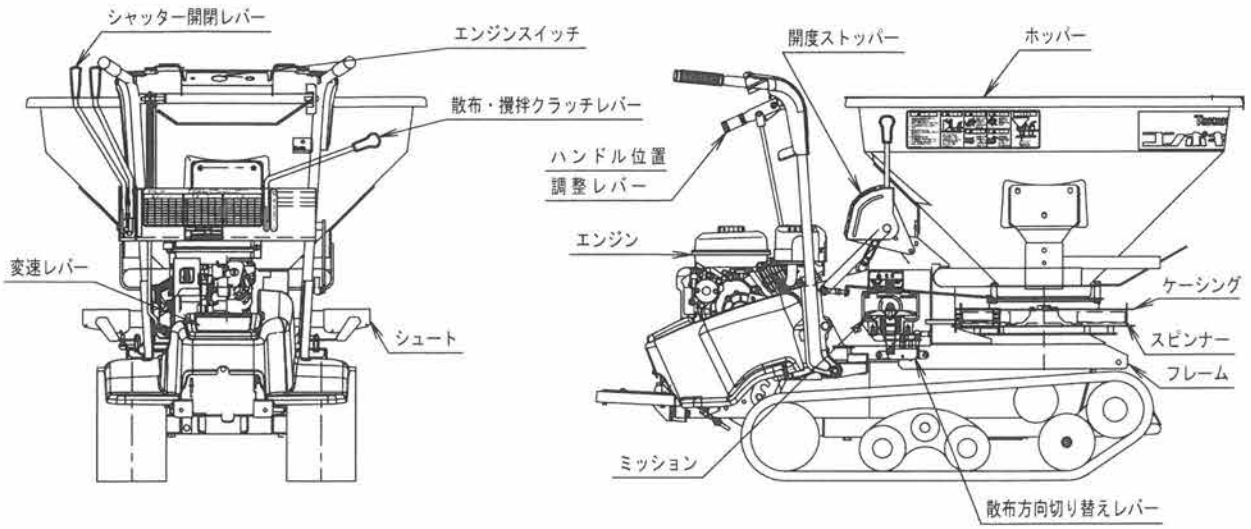
- ●品名と型式
- ●機体 No.（ＳＥＲ－Ｎｏ）
- ●ご使用状況は？
  （どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- ●どれくらい使用されましたか？
  （約○○アール、または約○○時間使用後）
- ●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品　　名	自走コンポキャスタ
型　　式	ＳＣ－２１０Ｆ
機 体 No. (SER－No.)	
購入年月日	年　　月　　日
販売店名	TEL：　　（　　）

各部の名称とはたらき

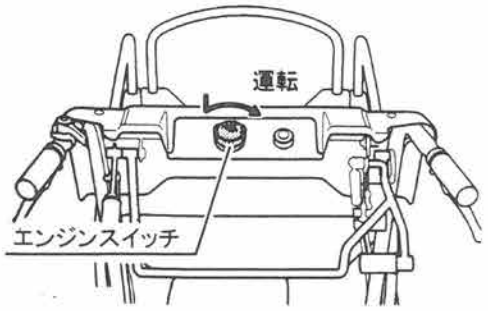


名　称	はたらき
ホッパー	肥料を投入するジョウゴ形の器です。
フレーム	全体の構成部を保持します。
シャッター開閉レバー	肥料散布シャッターの開閉及び散布量を調整するハンドルです。
開度ストッパー	シャッターレバーを適正な位置で停止させます。
ハンドル位置調整レバー	ハンドル位置を３段階に調整できます。
スピンナー	肥料を飛散させる回転円板です。
走行クラッチ	機体の移動・停止を行うクラッチです
エンジン	動力源・燃料はレギュラーガソリンを使用します。
エンジンスイッチ	エンジン始動、緊急停止を行うスイッチです。
散布・攪拌クラッチレバー	散布部への動力を「入」・「切」するためのレバーです。
ミッション	エンジン動力を散布部へ伝えます。
変速レバー	機体の走行速度を前進６段階、後進２段階に変速します。
シュート	飛距離を調整できます。
散布方向切り替えレバー	右、左、両撒きを切り替えるレバーです。
ケーシング	スピンナーを囲んで散布方向を規制します。２分割されており、保守点検時に脱着できます。

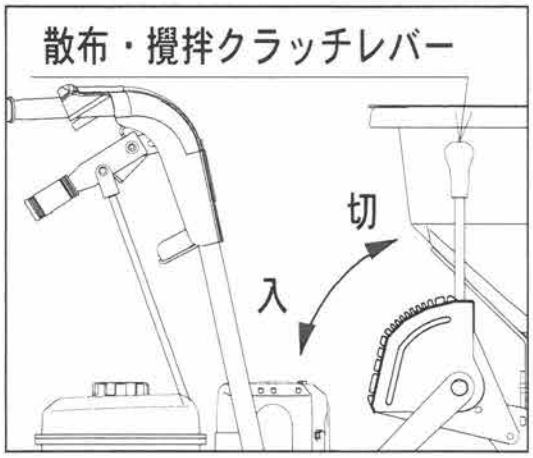
運転に必要な装置の取扱い

1．エンジンスイッチ

エンジンの始動時はエンジンスイッチを押して回し、「ＯＮ」にして、スターターノブを引いてください。また、エンジンを停止する場合はエンジンスイッチを押して「ＯＦＦ」にしてください。



2．散布・攪拌クラッチレバー



散布・攪拌クラッチレバーを「入」の方向にするとクラッチがつながり、散布部のスピンナー及びアジテータが回転します。

⚠ 警 告

- ●散布・攪拌クラッチレバーを「入」にするときは、まわりに人がいないことを確認のうえ、ゆっくりとつないでください。
- ●エンジン始動時は、突然スピンナーが動き出さないよう、散布・攪拌クラッチは必ず「切」にしてください。

3．シャッター開閉レバー

シャッター開閉レバーにより、散布の開始・停止を行います。

シャッター開閉レバーを下に倒すとシャッターが開き、散布を開始します。

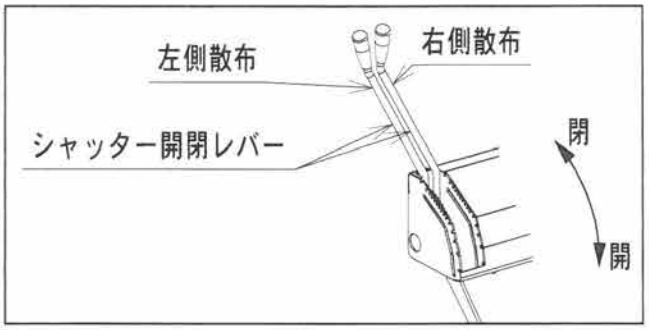
元に戻すと散布シャッターを閉じ、スピンナーが回転していても肥料の散布は、停止しています。

右側のレバーを倒すと右側散布が、左側のレバーを倒すと左側散布を行います。

両側散布時は、両方のレバーを同時に倒してください。

また、シャッター開閉レバーにより散布量の調整も行えます。

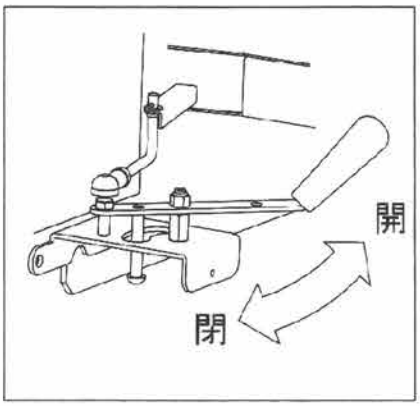
シャッター開閉レバーを下に倒すほど、繰り出し量が増えます。（散布量の調整は１４－１６頁を参照してください。）



4．散布方向切り替えレバー

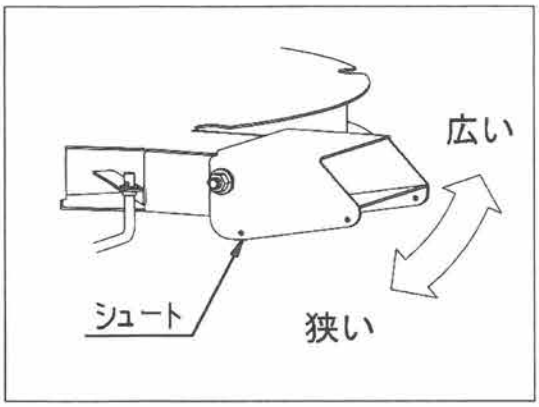
レバーの操作により、両側散布、左右片側散布を行えます。片側散布の場合は片側のレバーを手前に引いてください。

両側散布の場合は、両側のレバーを前に押してください。



5．シュート

シュートの角度を変えることで散布幅調整が行えます。デフレクタを直接操作して角度を調整してください。シュートを下げれば散布幅が狭くなります。



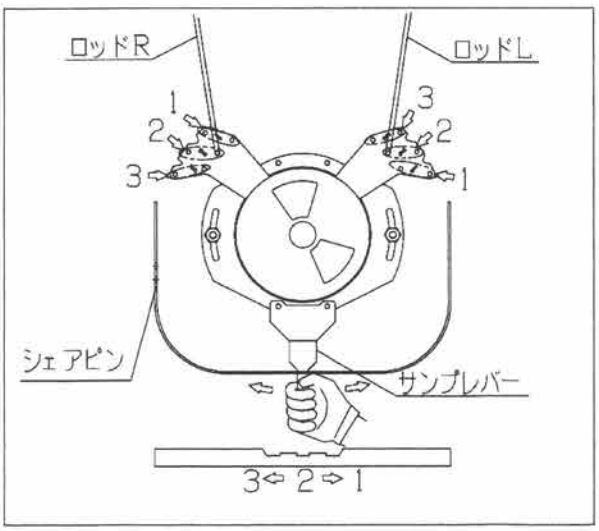
6．散布方向の調整

肥料の種類や比重の違いにより、散布量が片寄りすることがあります。

●散布量が片寄りした場合は、サンプレバーを左右に動かすことにより、散布の左右の片寄りを調整することができます。

●サンプレバーで、散布片寄りの調整を行なう場合は、ロッドR、ロッドLのアールピンを外して取付け穴の位置も下記表に合わせて入れ換えて下さい。

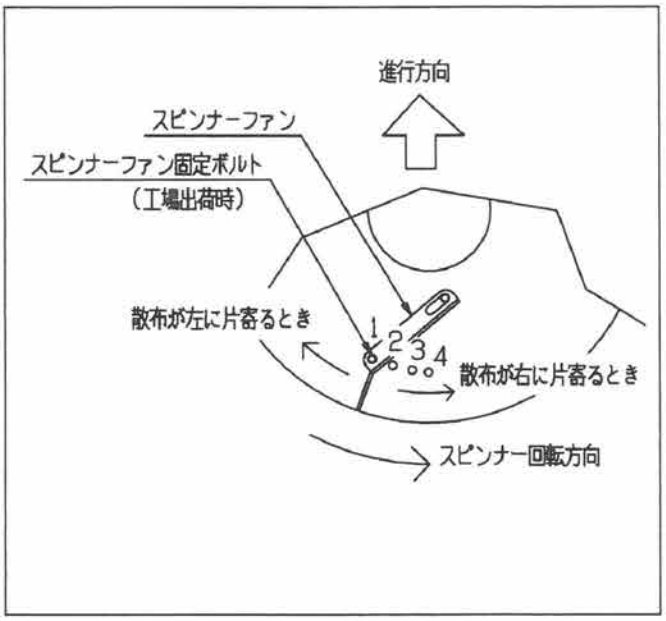
散布片寄り	サンプレバー	ロッドR	ロッドL
左側を増やす	1	1	1
初期調整位置	2	2	2
右側を増やす	3	3	3



●サンプレバーの調整をしても片寄りが修正できない場合は、スピンナーファンの位置を組み替えてください。

●出荷時はペレット肥料に合わせた１の位置にスピンナーファンを固定しています。

●散布が左に片寄る場合（主にペレットや配合肥料）は１～２の穴、右に片寄る場合（主に粒状肥料）は、３～４の穴に組み替えてください。



⚠警 告

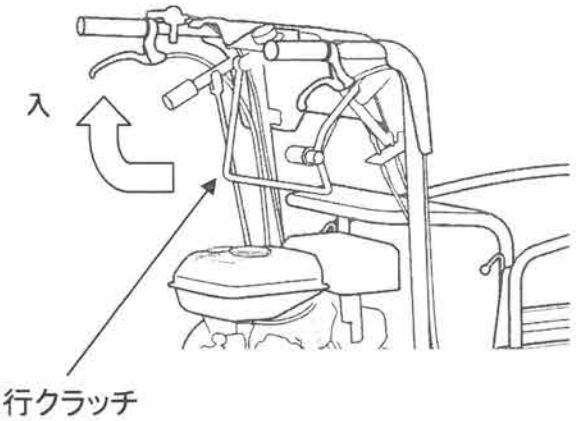
●スピンナーファンの調整をする時は必ずエンジンを停止してから行ってください。

●必ず軍手等の保護具をつけてから調整作業を行ってください。

これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

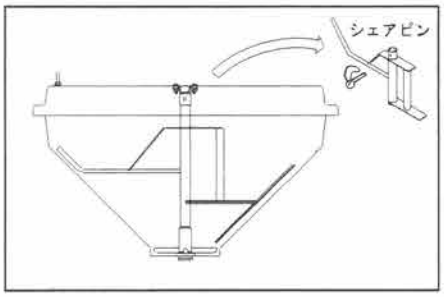
7．走行クラッチ

走行クラッチを「入」の方向にするとクラッチがつながり走行します。



8．粒状やペレット状肥料について

粒状やペレット状肥料などの場合、
攪拌アジテータを回すと粒が潰れてしまう可能性があります。
粒状やペレット状肥料の場合は、
シェアピンを取外して作業することをお勧めします。

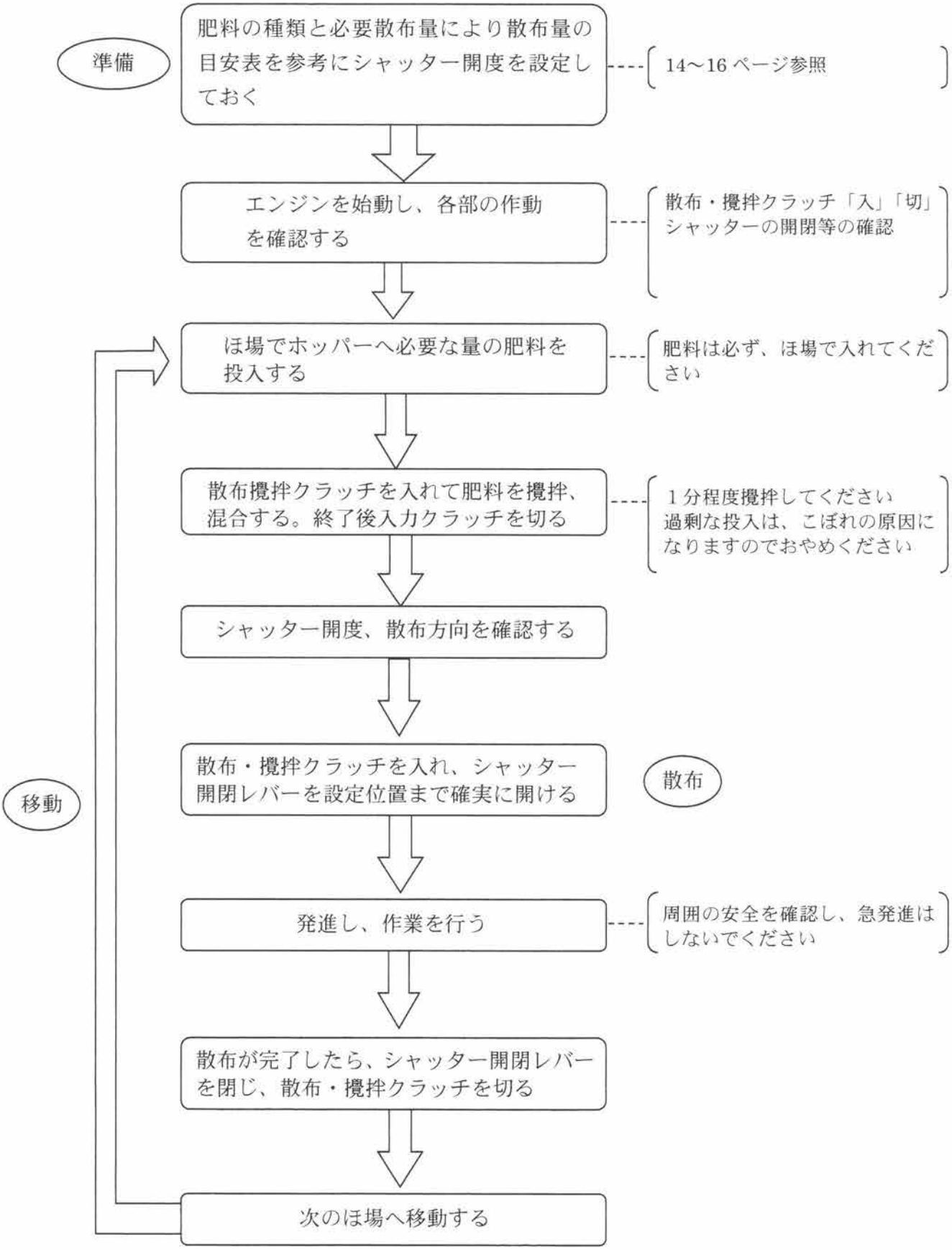


⚠ 注 意

散布作業に入る前には後方に人や動物がいないことを確認してください。

作　業　方　法

1．作業手順と要点



2．肥料の投入

⚠ 警 告

本機の積載量は200ﾘｯﾄﾙ（最大200kg）です。規定以上の積込みを行うと機械が破損するだけでなく、安全な走行作業が行えなくなる恐れがありますので、十分注意してください。

① 車輌を水平な場所に移動し、エンジンを停止して走行クラッチを切ってから肥料を投入してください。

②肥料は散布に必要な適正量のみホッパーに入れてください。不要な量の肥料は、後作業にムダを発生させます。

注 意

肥料は、必ずあらかじめ散布ほ場へトラック等で運んでおいてから散布の直前にホッパーへ入れるようにしてください。ホッパー内に肥料を入れたまま運搬すると、運送中に肥料がホッパー内で圧縮されるため、ブリッジ現象による繰出し不良や散布ムラの原因となります。

3．開度の設定

①散布量の調整は、開度ストッパーレバーの開度位置により行います。
シャッターレバーの目盛は0から7までありますが、1の位置から徐々に開きはじめ、7の位置で全開となります。さらに開度を大きくすることは可能ですが、掃除用としてお使いください。

注 意

粉状肥料及び水分量の多い有機肥料については詰まりの原因となりますので散布しないでください。

10a当たりの散布量の目安は以下の表を参考にしてください。

散布量の目安（kg／10a）　**樹間3mの場合**

開度＼車速	配合（比重0.74） 1	2	3	4	5	粒状（比重1.10 粒径2～5mm） 1	2	3	4	5	ペレット（比重0.80 直径4.5mm 長さ10mm） 1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	330	190	110	80	50	380	220	130	100	60	100	60	40	30	15
2	－	340	200	150	90	－	470	280	210	120	260	150	90	70	40
3	－	－	340	260	150	－	－	420	310	190	480	270	160	120	70
4	－	－	－	350	210	－	－	－	440	260	－	460	270	200	120
5	－	－	－	－	270	－	－	－	－	360	－	－	390	290	170
6	－	－	－	－	370	－	－	－	－	470	－	－	－	380	220
7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	310

散布量の目安（kg／10a）　**樹間4mの場合（ステッカーは樹間4mになります）**

開度＼車速	配合（比重0.74） 1	2	3	4	5	粒状（比重1.10 粒径2～5mm） 1	2	3	4	5	ペレット（比重0.80 直径4.5mm 長さ10mm） 1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	250	140	80	60	40	280	160	100	70	40	80	40	30	20	10
2	450	260	150	110	70	－	360	210	160	90	190	110	70	50	30
3	－	－	260	190	110	－	－	310	230	140	360	200	120	90	50
4	－	－	350	260	160	－	－	－	330	200	－	340	200	150	90
5	－	－	－	340	200	－	－	－	－	270	－	－	290	220	130
6	－	－	－	－	280	－	－	－	－	350	－	－	－	280	170
7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	230

作　業　方　法

散布量の目安（kg／10a）　　樹間6mの場合

配合（比重0.74）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	165	95	55	40	25
2	300	170	100	75	45
3	－	290	170	130	75
4	－	400	240	175	105
5	－	－	300	230	135
6	－	－	420	320	185
7	－	－	－	410	240

粒状（比重1.10 粒径2～5mm）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	190	110	65	50	30
2	410	235	140	105	60
3	－	360	210	155	95
4	－	－	290	220	130
5	－	－	410	310	180
6	－	－	－	400	235
7	－	－	－	－	300

ペレット（比重0.80 直径4.5mm長さ10mm）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	50	30	20	15	7.5
2	130	75	45	35	20
3	240	135	80	60	35
4	400	230	135	100	60
5	－	330	195	145	85
6	－	－	250	190	110
7	－	－	－	260	155

10m当たりの散布量の目安は以下の表を参考にしてください。

（参考）散布量の目安（kg／10m）

肥料の種類によって変わるため取扱説明書を参照してください。
表は両側散布時の散布量であり、片側散布時は半分になります。

配合（比重0.74）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	9.9	5.7	3.3	2.5	1.5
2	18.0	10.3	6.0	4.5	2.7
3	－	－	10.2	7.7	4.5
4	－	－	14.1	10.6	6.3
5	－	－	－	13.5	8.0
6	－	－	－	－	11.2
7	－	－	－	－	－

粒状（比重1.10 粒径2～5mm）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	11.4	6.5	3.8	2.8	1.7
2	－	14.2	8.3	6.2	3.7
3	－	－	12.5	9.4	5.5
4	－	－	－	13.2	7.8
5	－	－	－	－	10.9
6	－	－	－	－	14.1
7	－	－	－	－	－

ペレット（比重0.80 直径4.5mm長さ10mm）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	3.0	1.7	1.0	0.8	0.4
2	7.8	4.4	2.6	1.9	1.2
3	14.3	8.2	4.8	3.6	2.1
4	－	13.7	8.0	6.0	3.6
5	－	－	11.6	8.7	5.2
6	－	－	－	11.3	6.7
7	－	－	－	－	9.2

粒状肥料では比重、粒径が変わると散布量が変わるので、以下の表も参考にしてください。

（参考）散布量の目安（kg／10a）

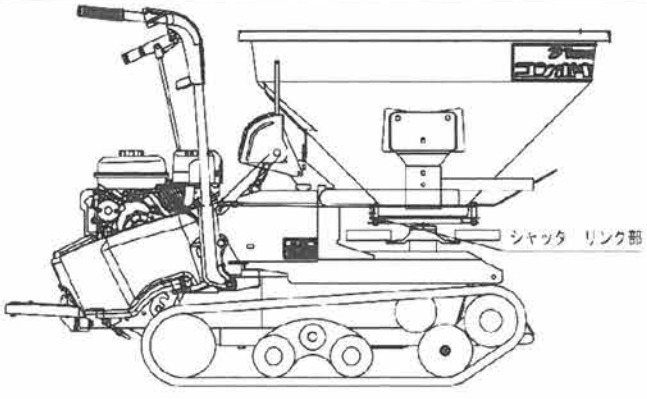
粒状（比重1.00 粒径3～6mm）

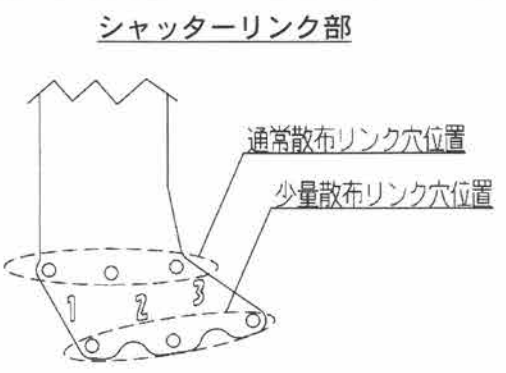
開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	200	120	70	50	30
2	－	260	150	110	70
3	－	400	230	180	100
4	－	－	340	260	150
5	－	－	－	350	210
6	－	－	－	－	270
7	－	－	－	－	360

粒状（比重0.79 粒径1～4mm）

開度＼車速	1	2	3	4	5
	0.4km/h	0.7km/h	1.2km/h	1.6km/h	2.7km/h
1	150	80	50	40	20
2	400	230	130	100	60
3	－	340	200	150	90
4	－	－	290	220	130
5	－	－	380	290	170
6	－	－	－	380	230
7	－	－	－	－	290

②少量散布を行いたい場合は、リンク穴位置を少量散布用穴位置に変更してください。
変更する際は、シャッター開閉レバーを少し開けた状態でシャッターリンク部のリンク穴位置を少量散布側の穴位置に付替えてください。（その際ホッパー内は空にしてください。）少量散布から通常散布に戻す場合も同様にしてください。
少量散布の散布量は散布量の目安表の３分の１程度になります。





作　業　方　法

◆簡易的な車速、シャッター開度の選定

散布量は目安表を参考に、開度ストッパーレバーで開度位置を設定してください。

≪例≫

比重1．10、粒径2～5mmの粒状肥料を樹間4m、10a当り120kg散布したい場合、前ページ表中から目標散布量以下の数値を探します。この条件では、100kgの欄より車速３、シャッター開度１となります。肥料が余った場合、補正する必要があります。以下の式から正確な車速、シャッター開度を設定してください。

◆正確な車速、シャッター開度の選定

$$\frac{\text{目標散布量[kg]} \times \text{表中散布量 [kg/10a]}}{(\text{ホッパーに投入した肥料[kg]} - \text{ホッパーに残った肥料[kg]})} = \text{補正後の表中散布量 [kg/10a]}$$

仮に35kg余った場合、式から次のようになります。

$$\frac{120[\text{kg}] \times 100[\text{kg/10a}]}{(120[\text{kg}] - 35[\text{kg}])} \fallingdotseq 140[\text{kg/10a}]$$

補正後の表中散布量は140[kg／10a]になり、散布量の目安表から適正な設定は車速５、シャッター開度３となります。

注 意

目安表の数値は参考値としてお考えください。実際には肥料の種類、散布条件、ほ場条件により差異が生じる場合があります。

最初に使用されるときは、目標散布量を少なくして散布し、残った肥料の量から適正な設定を計算してください。

◆シャッター開度ストッパー位置の変更

シャッター開度を設定されましたら、シャッター開度ストッパーレバーを上へ引き、設定開度位置まで移動させて、レバーを固定してください。

4．エンジンの回転速度について

エンジン回転速度はフルスロットルで作業を行ってください。低速で散布を行うと詰まり発生の原因となります。

5．散布作業の方法について

◆作業手順について

①散布・攪拌クラッチを入れ、シャッター開閉レバーを設定開度位置まで確実に倒してください。

②肥料が本機側方に散布されることが確認できたら、走行クラッチを入れ、走行を開始してください。

⚠ 注 意

散布作業に入る前には、側方および前方に人や動物がいないことを確認してください。

6．散布方向の選択

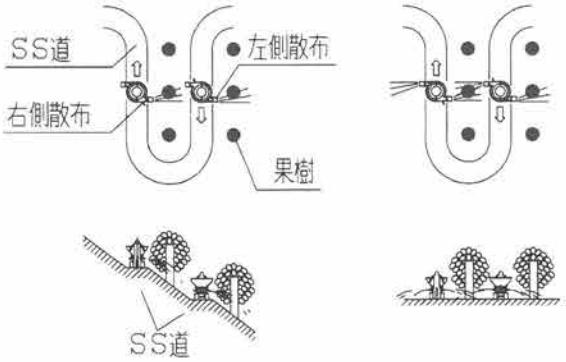
①ＳＳ道から散布する場合(傾斜地果樹園)

ＳＳ道から散布する場合は、下方へ散布するよう、散布方向を選択します。

●散布量は両側散布時の半分になります。

②平地果樹園で散布する場合

平地果樹園では、両側同時散布が可能です。



①傾斜地での散布　　②平地での散布（両側散布）

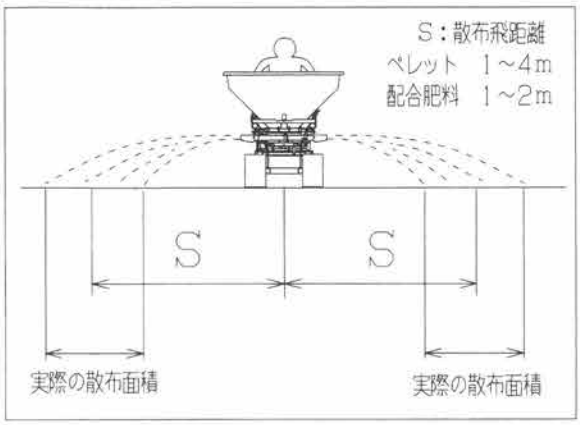
作　業　方　法

7．散布幅について

●散布飛距離は肥料の大きさ、スピンナーの回転速度、風などに影響されます。
一般的には、大きい粒子の肥料の場合はスピンナーの回転速度が速いほど散布飛距離が出ます。

●肥料の種類によっても散布飛距離が変わります。その種類や特性により散布幅に適切な重複が必要です。

●シュート角度を調整することで、散布距離を調整できます。



8．傾斜地について

等高線に対して直角方向に走行し、旋回時は速度を落とし、急旋回をしないでください。

⚠ 警 告

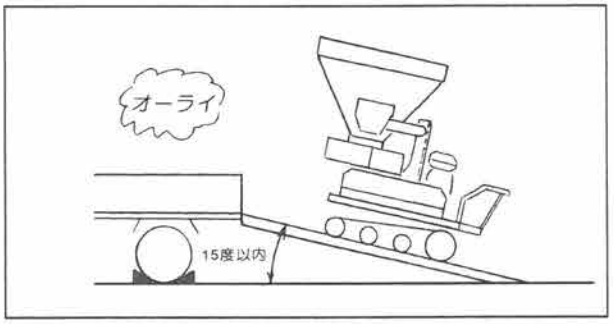
等高線に平行、または斜め走行や
急旋回は横転の危険がありますので
決して行わないでください

9．移動するときは

公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラック等で運搬してください。

10．車輌のトラックへの積込み・積降し

トラックへの積込み・積降ろしは、次の要領で行ってください。
思わぬ事故につながる恐れがありますので積込み、積降しとも充分注意してください。



⚠ 警 告

●積込み・積降ろしの場所は、周囲に危険物のない、平坦で安定した場所を選んでください。

●アユミ板のフックを荷台に段差のないように確実に掛けてください。

●周囲は機械が不意に動いたときに危険ですので立たないでください。

● アユミ板の上でサイドクラッチを操作して進路変更を絶対に行わないでください。
クローラがアユミ板から外れて**転倒する恐れがあります。**

●アユミ板とトラックの継ぎ目を越える時は、急に重心が変わりますので充分に注意してください。
特に、スピードの速い時には転倒の恐れがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。

①トラックへの積込み・積降ろしは平坦地を選び、補助者１名の立合いのもとで行ってください。

② 積込み・積降ろしに使用するアユミ板は滑り止めがあり、車輌の重量に充分耐えられるものを使用し、地面との傾斜角度が15度以内になる長さのものをご使用ください。

③ アユミ板のフック部をトラックの荷台部に確実に掛けて外れないことを確認してから、車輌の積降ろしを行ってください。

④積込み時の速度は最低速度で安全運転をしながら行ってください。

⑤トラックへの積込みは、必ず前進走行で行ってください。

１１．トラックでの運搬

⚠ 警 告

丈夫なロープを車輌に掛け、確実に固定してください。
守らないと、急ブレーキをかけた時などに**荷台から車輌が転落する恐れがあります。**

車輌を運搬する時は車輌重量以上の積載量があり、充分な広さを有するトラックを使用し、運転には坂道やカーブに注意して安全な速度を厳守してください。

作　業　方　法

１２．肥料の混合・攪拌方法について

◆散布する前にホッパー内で混合・攪拌する場合の手順

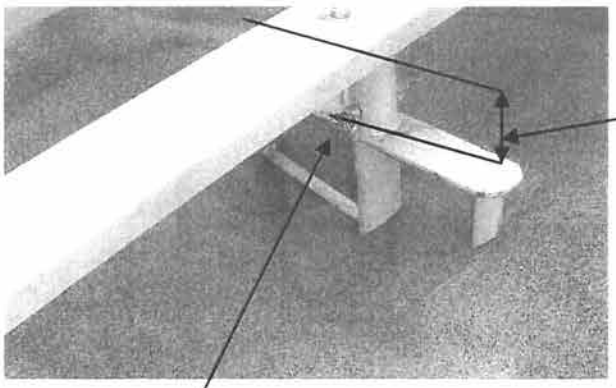
①シャッターを閉じてください。
②肥料の比重の軽い順にホッパー内へ入れてください。
③全種全量投入後、散布・攪拌クラッチを入れ、アジテータを回転させて肥料を混合攪拌し、混合が十分できたら散布してください。

⚠ 危 険

①肥料をホッパー内へ投入するときは、散布・攪拌クラッチを切り、アジテータ、スピンナー等、各部の作動停止を確認してから投入してください。
②肥料には混合の適否があります。必ず、次頁表を参考にして安全性を確認してから混合してください。
③混合の可否が不明な肥料については、必ず肥料メーカーにご相談ください。

注 意

①尿素は空気中の水分を吸収し、他の混合物を硬化させる性質があります。混合は避け、尿素単肥として散布してください。同様に古い湿った肥料は避けてください
②比重の軽い肥料の攪拌・混合時には、上部より肥料がこぼれる場合があります。袋入り堆肥でホッパー上部より10cm程度、粒状肥料で上端より3cm程度を目安に投入してください。上端まで投入される場合は、エンジン回転数を調整していただくか、比重の重い肥料を上側に投入いただくことでこぼれを抑制できます。
③生石灰は水と反応し、可燃物を発火させるほどの熱を発生することがあります。水との接触は避けてください。
④ペレット状、粒状の肥料を散布する際はシェアピンを抜き作業を行ってください。肥料の粉砕を抑制できます。



（参考位置）
アジテータ上端
（天板より10cmの位置）

作　業　方　法

	硫安	塩安	硝安	尿素	石灰チッソ	過石	熔リン	苦土過石	重焼リン	硫酸カリ	塩化カリ	草木灰	魚肥・油カス	骨粉	緑肥	生石灰	消石灰	炭カル	硫酸苦土	水酸化苦土	炭酸苦土	ケイカル
硫安		▲	▲	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	▲	×	×	▲	○	×	×	×
塩安	▲		▲	▲	×	▲	×	▲	○	▲	▲	×	○	○	▲	×	×	▲	▲	×	×	×
硝安	▲	▲		▲	×	▲	×	▲	▲	▲	▲	×	×	▲	×	×	×	▲	▲	×	×	×
尿素	○	▲	▲		▲	▲	○	▲	○	▲	▲	▲	▲	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
石灰チッソ	×	×	×	▲		×	○	×	▲	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
過石	○	▲	▲	▲	×		▲	○	○	○	▲	×	○	○	○	×	×	▲	○	×	×	×
熔リン	×	×	×	○	○	▲		×	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○
苦土過石	○	▲	▲	▲	×	○	×		○	○	▲	×	○	○	○	×	×	▲	○	×	×	×
重焼リン	○	○	▲	○	▲	○	○	○		○	○	○	○	○	○	▲	▲	▲	○	▲	▲	▲
硫酸カリ	○	▲	▲	▲	▲	○	○	○	○		○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○
塩化カリ	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲	○	○		○	○	○	○	▲	▲	○	○	○	○	○
草木灰	×	×	×	▲	○	×	○	×	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
魚肥・油カス	○	○	×	▲	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
骨粉	○	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	▲	○	○	○	○	○	○
緑肥	▲	▲	×	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
生石灰	×	×	×	▲	○	×	▲	×	▲	▲	▲	○	○	▲	○		○	○	○	○	○	○
消石灰	×	×	×	▲	○	×	○	×	▲	○	▲	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
炭カル	▲	▲	▲	▲	○	▲	○	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
硫酸苦土	○	▲	▲	▲	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
水酸化苦土	×	×	×	▲	○	×	○	×	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
炭酸苦土	×	×	×	▲	○	×	○	×	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
ケイカル	×	×	×	▲	○	×	○	×	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※粉状肥料及び水分量の多い堆肥については詰まりの原因となりますので散布しないでください。

《記号の見方》

○印：混合しても良いもの

▲印：混合したらすぐに散布すべきもの

×印：混合してはならないもの

『肥料便覧より』

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。

⚠ 警 告

- ●取外したカバー類は必ず取付けてください。**衣服が巻き込まれたりして危険です。**
- ●調節・整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- ●エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。**やけどをする恐れがあります。**
- ●燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対に使用しないでください。また、燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと**火災の原因となります。**

点検一覧表

項　　目	内　　容	参照ページ	チェック
前回使用の異常箇所	修理、補修が完全に行なわれているか	—	
損傷・汚れ・ボルトの緩み	車体の損傷、緩み、ガタつきがないか	—	
エンジンオイル	オイル量と汚れ、油漏れ 補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回:25時間 2回目以降:50時間毎 推奨　API分類　SE級以上 SAE分類　10W－30または10W－40 容量　0．5ℓ	（ｴﾝｼﾞﾝの取説）	
エンジンの燃料	燃料の量と漏れ 推奨　自動車用無鉛ガソリン 容量　2．5ℓ	（ｴﾝｼﾞﾝの取説）	
エンジンのエアクリーナ	エアクリーナの汚れ（重要）	２２	
トランスミッションオイル	オイル量と汚れ、油漏れ 交換　初回:50時間 2回目以降:500時間毎 推奨　API分類　GL4または5 SAE分類　＃80 容量　1．4ℓ	（台車の取説）	
散布･攪拌クラッチレバー	エンジンを始動し、散布部の「入」「切」を確認	１０	
アジテータ・スピンナーファン	摩耗していないか	—	
各部の回転	アジテータ・スピンナーの回転はスムーズか	—	
シャッター開閉レバーの作動	スムーズにかつ開閉が確実か	１０	
散布方向切替えレバーの作動	スムーズに動くか	１０	

簡単な手入れと処置

⚠警 告

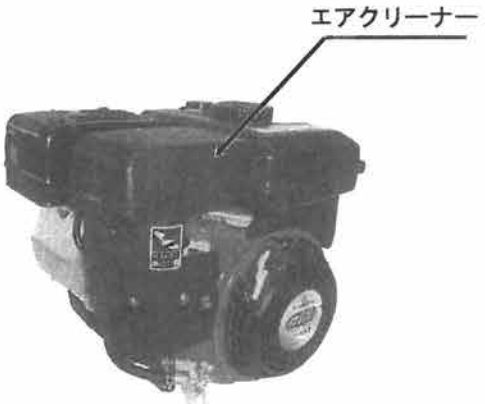
①各部の調整をするときは、エンジンを停止させて回転部が完全に止まってから行ってください。
②取外したカバー類は必ず取付けてください。

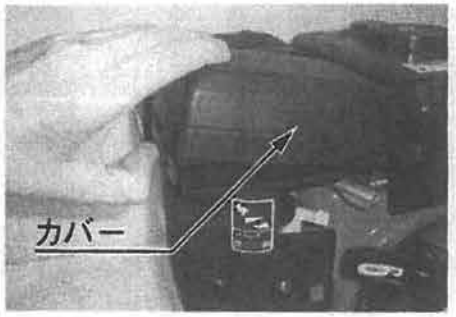
1．エンジンの点検・調整

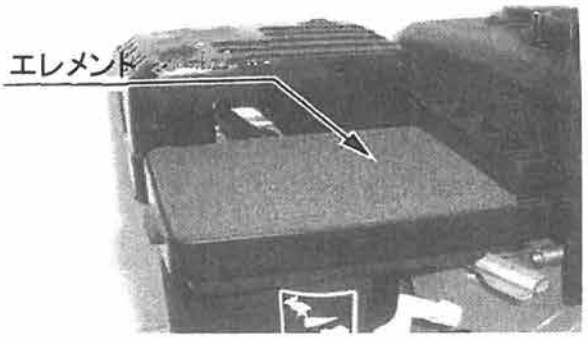
※エンジンについては別冊の「エンジン取扱説明書」を必ずお読みいただき、日常点検・整備には万全にしてください。

2．エンジンのエアクリーナー（重要！！）

本機はホコリの多い環境で使用されるため、エアクリーナーの点検・清掃が大変重要となります、下記に従い、作業前には点検・清掃を行ってください。
守らないと、エンジンが不調となるばかりでなく、エンジンの摩耗が早まり寿命が大きく低下する原因となります。







※エレメントの点検・整備

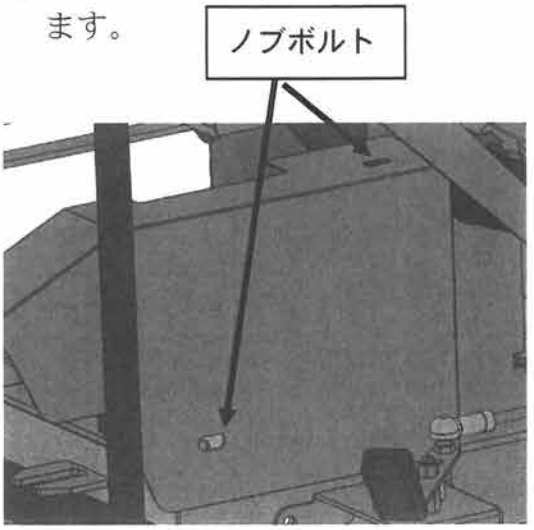
①カバーを外し、エレメントを点検してください。
②エレメントの汚れがひどいときは、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、片手で軽く絞ってください。
③点検後はカバーを確実に組付けてください。

◆また、塵の多い作業時には付属の防塵ネットでエアクリーナーを覆ってください。

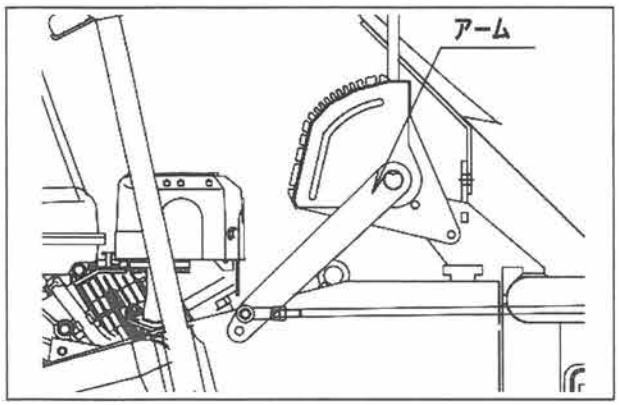
3．ベルトカバーの取外し

チェン、走行ベルトの点検時には、散布フレームのダンプが可能です。散布フレームのダンプには、まず、以下の手順に従い、ベルトカバーを取外してください。

①ベルトカバーのノブボルト2本を外します。



②カバーを引き抜き易くするために、開度を最大にして、左側散布レバーを全開にします。（下図のアーム前側へ移動します）



③台車のハンドル位置を下段にします。
④ベルトカバーを引き抜きます。

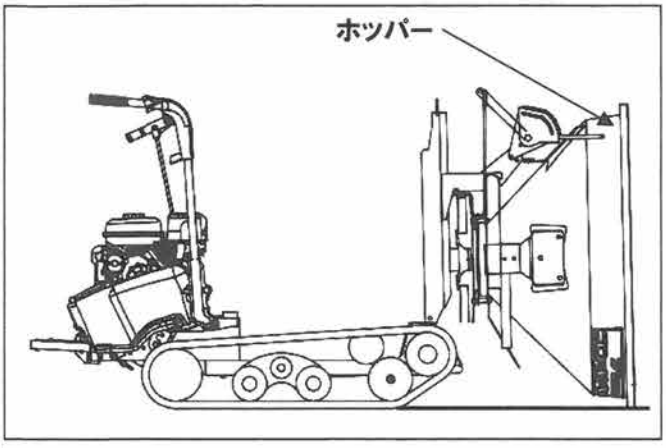
4．散布フレームのダンプ

本体をダンプする際には、項３の手順でベルトカバーを取外した後、以下の手順で行ってください。

①エンジンプーリと散布クラッチをつなぐＶベルトを取外します。

②本体フレーム固定用のリンチピンを抜いた状態で、ホッパーを持ち上げます。

③地面と接地するまで、ゆっくり倒してください。ホッパーが安定するまで倒してください。

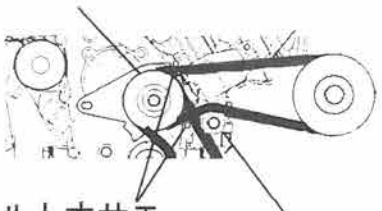


⚠警 告

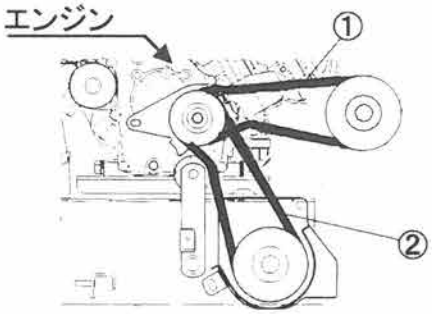
本体ダンプの際には、必ずホッパーが安定するまで倒してください。
怠ると、本体フレームが落下した際に、傷害を受ける恐れがあります。

① 取外したカバー、リンチピンは使用前に必ず取付けてください。
② Ｖベルト取付けの際は、ベルト、テンションプーリ、ベルトオサエの位置関係が、以下の図の通りとなっていることを確認してください。

エンジンプーリ



5．Ｖベルトの張り点検・調整



Ｖベルトの点検は次頁表に従い行ってください。Ｖベルトに損傷がある場合は早めに交換してください。

◆調整方法

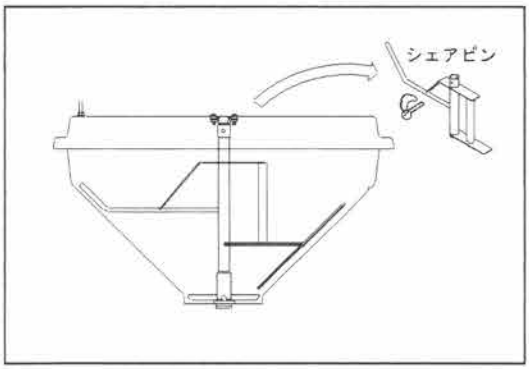
緩んでいる場合はエンジン取付けボルトを緩め、エンジンを後方へ移動させてベルトを張ってください。

ベルト中央部を指で押し、10～15mmのたわみとなるようにしてください。

場所	ベルトサイズ	本数	点検方法
①	LB－42	1	テンションクラッチとなっております。散布・カクハンクラッチを「入」にしたとき回転が伝わり、「切」にしたとき切れることを確認してください。
②	LB－28	1	テンションクラッチとなっております。走行クラッチを「入」にしたとき回転が伝わり、「切」にしたとき切れることを確認してください。

6．シェアピンの交換

◆本機にはコンポスト用アジテータに急激な過負荷が作用した場合、本機の損傷を防ぐための安全装置としてシェアピンを下図の位置に装備しています。
過負荷が作用したとき、このシェアピンがせん断され、本機主要部の損傷を防止します。



◆シェアピンの品番

・シェアピン　11635－1892－000 ― 1ケ

⚠ 注 意

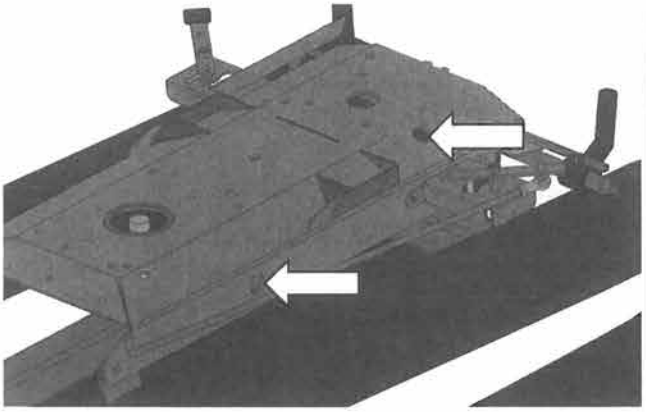
●シェアピンの交換は必ずエンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。

●シェアピンは、指定以外には絶対に使用しないでください。

7．注油について

作業前には、以下の手順で駆動チェンに注油を行ってください。

①注油口のグロメット(2ヶ所)を取外します。



②散布・攪拌クラッチが「切」になっていることを確認し、スピンナーを手で回転させながら注油口より注油してください。

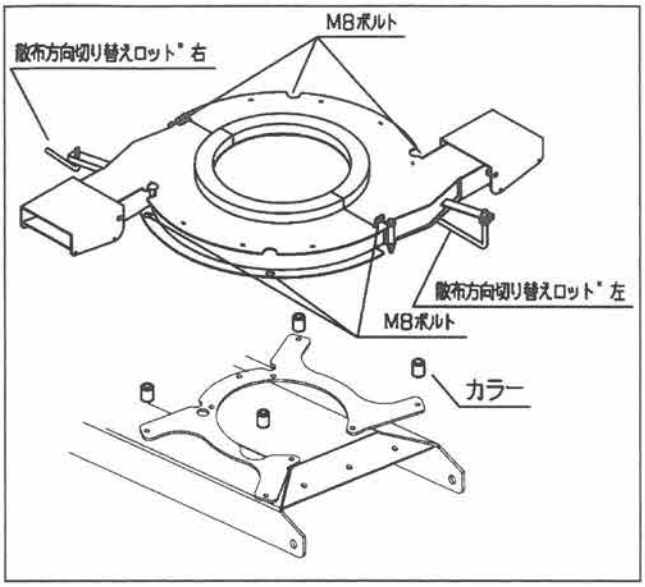
⚠ 警 告

①注油時は必ずエンジンが停止した状態で行ってください。またスピンナー操作時は軍手等、保護具着用の上で行ってください。**守らないと傷害を受ける恐れがあります。**

②注油終了後は必ずグロメットを取付けてください。取付けずに使用使用するとチェンの錆、腐食の発生の恐れがあります。

8．ケーシング

作業終了後は、ケーシング内部に肥料が残らないよう掃除をしてください。
ケーシングはＭ８ボルトと散布方向切り替えロッドを外すことで取外すことができます。取外す際はカラーを紛失しないよう気を付けてください。



注 意

肥料をケーシング内に残したまま放置すると、肥料が固まって故障の原因となります。

9．肥料について

●肥料は湿気が少なく、乾燥後粒度が均一で、塊や異物の混じっていないものを使用してください。

●湿った肥料や、ビニール片等の混入した肥料は散布ムラの原因になりますので使用しないでください。

注 意

湿った肥料は、ホッパー内でブリッジ現象や詰まりを起こしやすく、またビニール片等はアジテータに巻き付いたりして不均一散布の原因になります。

⚠警 告

残った肥料の取出しや掃除をするときは、入力クラッチを切り、エンジンを完全に停止させてから行ってください。

１０．日常の管理について

●シャッター部に水分が付着していると、肥料の繰り出しが悪くなります。
水分や付着物を乾いた布で拭き取ってから使用してください。

●スピンナーファンに肥料が付着していると散布性能が変化します。いつも、きれいにしておいてください。

●使用後は、ホッパー内に肥料を残したまま放置しないでください。肥料が固まって故障の原因となります。

●作業終了後は、常に掃除をするように心掛けてください。

●雨中での作業ならびに屋外での保管は避けてください。
守らないと、散布する肥料により、エンジンキャブレターの不調をきたす場合があります。

●やむを得ず、降雨中作業された場合は作業終了後、エンジンが冷えてからエンジンキャブレターまわりを必ず水洗いするようにしてください。

１１．長期格納時の手入れ

長期にわたって、ご使用にならない時は次のことを行い、保管してください。

●水洗いをし、付着した肥料や埃などを落とし、異物を取除いてください。

☆苛性カリを含んだ肥料を散布した後は、特に念入りに水洗いを行ってください。

☆高圧洗浄機を使用する際はラベルを避けて洗車してください。

●乾燥後は、各回転･摺動部には充分注油し、錆びないようにしてください。

●塗装の剥がれた部分には、補修塗料等を塗って錆が出ないようにしてください。

●各部のボルト、ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときには締めてください。

●格納する場所は、雨や埃のかからない屋内に保管してください。

●格納は、平坦なところで保管してください。

●格納する際はリコイルをエアーで掃除をしてください。（重要）

⚠ 重要

エンジンの燃料タンクからガソリンを完全に抜いてください。また、燃料パイプ等に残ったガソリンはエンジンを始動し使い切ってください。

不 調 診 断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照ページ
●散布方向が片寄る	●散布中心と走行中心が一致しない	●散布レバーの調整 ●スピンナーファンの角度調整	11 11
●散布量が安定しない	●アジテータ・シャッター開口部に異物が絡まっている ●ホッパー内またはケーシング内で湿った肥料が詰まっている	●エンジンを停止して異物の除去 ●乾燥した肥料に入れ替える	— 19-20
●散布量が少ない	●上記項に同じ ●シャッターの開口穴より、肥料の粒径の方が大きい ●ベルトがスリップする	●上記項に同じ ●シャッター開度を大きくして作業速度を速くする ●ベルトの張りを調整する	— 14-16 23-24
●散布幅が狭い	●スピンナーファンが摩耗している ●エンジン回転速度が出ていない ●ベルトがスリップしている ●シュート角度が適正でない	●新しい部品と交換 ●エンジン回転速度を上げる ●ベルトの張りを調整する ●シュート角度を調整する	25 — 22-24 11
●エンジンが始動しない	●燃料タンクにガソリンが入っていない ●燃料に水などの不純物が混入している ●点火プラグが悪くなっている ●エンジンスイッチが「OFF」になっている。	●ガソリンを補給する ●水抜きまたは新しい燃料にする ●点火プラグを外し、火であぶるか、乾いた布などでよく拭き乾燥させる ●点火プラグのすき間を調整する ●エンジンスイッチを「ON」にする	ｴﾝｼﾞﾝの取説 〃 〃 〃 10
●エンジンの定格出力が出ない	●エアクリーナーの目詰まり	●エレメントを清掃する	22及びｴﾝｼﾞﾝの取説
●シェアピンが切れる	●粒状肥料、砂状肥料に対して、アジテータを駆動している ●異物が混入している ●混合散布時	●シェアピンを外す ●異物を取り除く ●投入量を減らす	24 — —

付　　表

1．主要諸元

品　　名		自走コンポキャスタ		
型　　式		ＳＣ－２１０Ｆ		
機体寸法※	全　　長　(mm)	1690～1810		
	全　　幅　(mm)	1040		
	全　　高　(mm)	1060～1140		
ホッパー地上高 (mm)		1000		
質　　量 (kg)		248		
散布部	ホッパー容量 (ℓ)	200		
	散布方式	スピンナー方式		
	スピンナー回転速度 (min^{-1} {rpm})	509		
	アジテータ回転速度 (min^{-1} {rpm})	50		
ゴムクローラ寸法	クローラ幅 (mm)	180		
	中心距離 (mm)	495		
	接地長 (mm)	740		
接地圧	空車時 (kPa {kg/cm^2})	9.2 {0.09}		
	積載時 (200kg) (kPa {kg/cm^2})	16.7 {0.17}		
旋回方式		爪ブレーキ式		
速度	F1～F6 (km/h)	F1-0.4	F2-0.7	F3-1.2
		F4-1.6	F5-2.7	F6-4.4
	R1～R2 (km/h)	R1-0.6	R2-2.1	
エンジン (kW {PS})		OHVガソリンエンジン　最大 3.0 {4.2} 定格 2.3 {3.1}		
散布方向		左・右　または　左右同時		

この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。
※機体寸法はハンドル可変のため、３段階で変化します。

2．主な消耗部品

部　品　名　称	部品コード	数量	備考
Ｖベルト（エンジン→散布ミッション）	03610 3120 420	1	LB－42
Ｖベルト（エンジン→中間軸）	03610 3120 280	1	LB－28
Ｖベルト（中間軸→走行ミッション）	03610 3120 630	1	LB－63
スピンナーファン	41115 6245 010	3	
シェアピン　１０	11635 1892 000	1	